

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	白船 睦洋
主な担当科目	主専攻実技レッスン(ベース) リズムトレーニング ライブパフォーマンスⅠ①,ライブパフォーマンスⅡ①,卒業ライブ,ジャズ演奏法③ スモールアンサンブル:ラテンリズムセクション,音楽教養表現Ⅱ,副科グループレッスン 水2,3,3,金2,音楽教養表現Ⅰ ,ジャズ演奏法③ スモールアンサンブル:ロックD,インストⅠ,インストⅠ
2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	授業・レッスンでは個々への確かな指導やアドバイス等を行う。個人レッスンでは個人の實力やレベルに応じた指導を行う。学生との良い距離感を持ったコミュニケーションを図り、ディスカッションを繰り返し、個々の望むもの、目指す姿へ向かいスキルの向上を目指す。複数学生でのグループレッスンでも、個々のレベルに合わせてながらグループとしてうまく進行させていく。
2025年の教育に関する自己評価	個人レッスンに関しては一人々のレベルや求めるスキルなどに合わせて的確な指導を行えた。これによりそれぞれのスキル・レベルアップがみられた。副科グループレッスンにおいても多少演奏レベル差があったが、うまく進行することができた。座学授業においても学生をまとめ「音楽教養コンサート」の成功へと導くことができた。全てにおいて学生とのコミュニケーションをうまく取ることができた。
2025年のFD活動に関する自己評価	FD活動を積極的に行なった。2月27日2024年度FD研修会、4月1日のFD合同研修会に出席。、4月2日には大学院FD研修会への参加。9月9日のFD・SD合同研修会への出席により、大学の教育力向上を目指す研修となった。4月1日、7月30日の2回のジャズ・ポピュラーFD研修会を主導的に進行し教育内容の検討や意見交換、改善策の検討を非常勤講師と協力し組織的な取り組みを行った。他には、9月9日のFD・SD研修会、同日の作曲部会FD研修会への参加。音楽教養分科会FD研修会は7月17日と、12月18日の2回それぞれ出席。ジャズ・ポピュラー音楽コースでは実技試験時には楽器パート別のFDを主導開催し、意見交換、改善策の検討を行った。(パート別FDは前期 2回、後期2回を主導し行った)
授業改善のために取り入れた研修内容	ジャズ・ポップ&ロックミュージックコースでは留学生が増えており特に言語問題、文化の違いなど留学生へどう対応すべきかに関して、対応法など大変参考となった。留学生に対しての言語問題にどう対応すべきか。特に「コミュニケーションの方法等」に関してなどはレッスンや授業での留学生対応に取り入れた。また、多様背景を持つ学生がおり「発達障害」の可能性も視野に入れ、如何に対応していくか教員も理解をしていき、大学と連携をしながらより円滑なコミュニケーションをとることができた。

2025 年度(秋学期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1642 教員名:白船 睦洋

1)アンケート結果に対する所見

全体的に概ね良い結果が得られている。指導上の目標である、個々に対しての指導をしっかりと行うということができていたのではないかと。特に、複数学生のいる授業等において一人一人へ指導を行うこと、また個々の状況やレベルに応じた指導を行うことができたと考える。個別の指導は、簡潔に細やかな指導を行い、授業時間に影響が無いよう時間の使い方を工夫することが重要である。

アンケート結果から、学生のシラバスの理解が少ないこと、授業外での学修が少ないという結果があり、これに関しては指導を行う教員側の指導や課題を与えるなどの指示や工夫が必要であろう。また、大学全体として、クラス全体会などを通じてシラバスの重要性を周知させ、しっかり授業内容を確認させる必要がある。

2)要望への対応・改善方策

概ね良い記述が得られている。特に主科実技レッスン、副科実技レッスンではとても良い評価を得ており、今後も丁寧で熱心な指導をさらに向上させながら続けていきたい。

音楽教養表現Ⅱでは好評価が多い反面、そうではない意見があった。音楽教養コースコンサートは、全員で運営し、一つになって行った公演であり、終了後も皆とても満足し、反省会でもそのような意見はなかった。授業に関しての概要も説明しており、何よりシラバスにも明記していた。このアンケート記述は個人的な意見のような内容でもあるが、しかし1人でもそう感じる学生がいることは改善しなければならない。

3)今後の課題

基本的な目標である、学生一人一人に目を向けた指導は今後もより丁寧に行なっていく必要がある。学生ごとのレベルや理解度のばらつきに対して柔軟な指導を行なっていく必要がある。理解できる学生とそうでない学生の両方が学べる授業・レッスン内容を模索していく必要がある。

また、複数教員で数コマずつ担当する「リズムトレーニング」授業などは、他担当教員との連携を図り、より密な指導を行えるよう進めていく必要がある。

シラバスの重要性から、履修時シラバスを全部読まないで登録ができないようなシステムの構築などの検討も必要であろう。

以 上